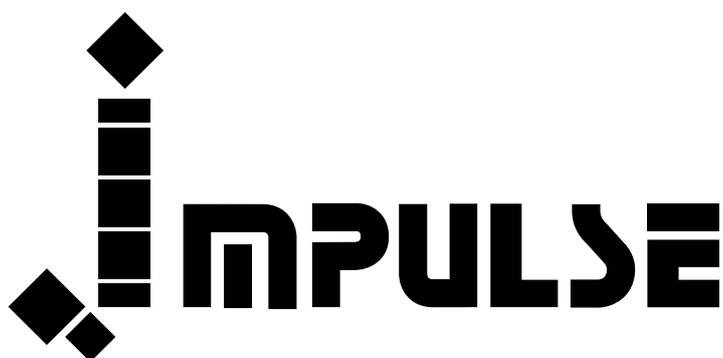


第2章

道商工青連の歩み



1 単会青年部と道商工連青年部結成の動き

昭和38年11月、東京都内で開催された「商工会法施行3周年記念全国大会」において、緊急動議が提案され、「商工会青年部ならびに婦人部の全国組織を早急に結成し、その確立を期待する」ことが満場一致で可決された。この決議を受けて全国連では、青年部・婦人部の全国組織強化の方途を策定し、昭和40年に青年部・婦人部の組織化に向けた各規約案文を添えた『青年部、婦人部に関する参考資料』を各都道府県連へ配布した。

このことが契機となり、青年部、婦人部の結成促進の全国的な機運は急速に高まり、中央におけるこうした動きを反映して、道商工連においても組織確立の機運が盛り上がった。

道商工連では、昭和40年度に「商工会傘下青年部・婦人部の設立ならびに組織化」に向けた指導を行い、昭和41年の通常総会においては「商工会青年部・婦人部の結成促進と指導強化」が重点事業として採択され、これを具体化するために青年部モデル規約を作成し、青年部の設置を促進した。

組織化に向けて実施された昭和40年の青年部・婦人部現況調査では、商工会数165に対して、青年部を組織化している商工会が51か所という結果であったが、翌年の昭和41年7月1日時点では、調査対象167商工会のうち商工会の部会(内部組織)として設置されている青年部の数は55か所(部員数1,974名)に増え、さらに昭和41年度中に設置を予定している商工会が40か所に達していた。

単位青年部設立の機運が高まり、加えて上川・空知管内に支部青年部が結成されるなど支部青年部結成が加速する中、全道組織としての道商工連青年部結成の準備が進められ、昭和42年2月15日、全道の青年部員が札幌市に結集し、「北海道商工会連合会青年部結成大会」が開催された。

結成大会は、まず「全道商工会青年部決起大会」として幕を開け、梶彦也大会準備委員長(妹背牛商工会青年部長)の経過報告、菊池寅蔵道商工連会長の挨拶のあと、「中小企業施策の強化促進」、「地域経済振興施策の促進」、「北海道商工会連合会青年部の設置促進」を決議し「結成大会」に切り換えられた。

全道の青年部員267名の出席のもとで開催された結成大会では、青年部規約の審議を行い、付則に「設立当時の部員の資格の特例」を加えて可決し、役員には、梶彦也部長(妹背牛)、平井操(当麻町)、松永満雄(八雲)、小宮山幸雄(阿寒町)各副部長をはじめ18名を選任し、ここに全道91商工会青年部、3,249名の部員をもって、北海道商工会連合会青年部が結成された。

ここから青年部結成の動きが加速し、昭和43年7月時点で143カ所、昭和44年8月時点で158カ所(169商工会)、昭和45年8月時点で163カ所(170商工会)と順調に結成が進められた。

また、昭和55年12月、後志管内泊村商工会青年部が設立し、単位青年部の完全結成となった。

< 青年部数の推移と支部青年部設置状況 >

年月日	商工会数	部数	部員数	年月日	商工会数	部数	部員数
昭和 41. 7. 10	167	55	1,974	昭和 42. 10. 8	胆振支部青年部結成		
昭和 41. 10. 26	上川管内青年部連絡協議会結成				日高支部青年部結成		
昭和 41. 11. 21	空知支部青年部結成			昭和 43. 3. 3	留萌支部青年部結成		
昭和 42. 2. 5	167	91	3,249	昭和 43. 7. 31	167	143	4,950
昭和 42. 2. 15	道商工連青年部結成			昭和 43. 10. 4	石狩支部青年部結成		
昭和 42. 7. 2	桧山支部青年部結成			昭和 43. 11. 17	網走支部青年部結成		
昭和 42. 7. 23	十勝支部青年部結成			昭和 44. 1. 22	渡島支部青年部結成		
昭和 42. 8. 4	上川支部青年部結成 (改組)			昭和 44. 3. 10	根室支部青年部結成		
昭和 42. 8. 15	167	120	4,110	昭和 44. 8. 31	169	158	5,207
昭和 42. 9. 3	釧路支部青年部結成			昭和 44. 10. 18	宗谷支部青年部結成		
昭和 42. 10. 1	後志支部青年部結成			昭和 45. 8. 31	170	163	5,267

2 結成から事業の拡充に向けた動き

道商工青連創成期の事業は、人材育成を主眼としたブロック別講習会・中央講習会（現指導者中央研修会）、青年部活動の範となる青年部を指定する「モデル青年部」（現道商工青連会長賞）などが中心であり、これらの事業は形を変えつつ現在も実施されている。

昭和47年6月には、道商工連青年部が結成5周年を迎え「全道商工会青年部大会」を開催し、道内青年部員数が5,354名と拡大基調にあった青年部は商工会組織の中核体としての存在意義をアピールした。

さらに、昭和51年6月、結成10周年記念式典を盛大に開催し、記念事業として札幌市の東急百貨店で「商工会地域物産展示即売会」を実施した。

この成功を受け、昭和56年の結成15周年記念事業としても「全道商工会物産展示即売会」が実施されることとなる。

また、昭和44年から9回継続して実施された「全道商工会野球大会」が幕を閉じたのもこの年であった。

以降、昭和52年から現在も実施されている交通安全推進事業が開始され、昭和53年には、青年部・婦人部が実施する各種研修会、視察研修事業、地域振興事業に対する補助制度である青年部・婦人部活動推進費が予算化された。

< 活動推進費の推移 >

(単位：千円)

年度	昭和 53	昭和 54	昭和 55	昭和 56	昭和 57	昭和 58	昭和 59	昭和 60
単価	150	150	300	400	500	500	640	720
総額	26,700	26,700	53,400	71,200	89,000	89,500	114,560	128,880
年度	昭和 61	昭和 62	昭和 63	平成元	平成 2	平成 3	平成 4	平成 5
単価	760	800	840	900	940	940	940	1,000
総額	136,040	144,000	151,200	162,900	169,200	169,200	169,200	180,000
年度	平成 6	平成 7	平成 8	平成 9	平成 10	平成 11	平成 12	
単価	1,000	1,000	1,000	1,000	950	760	700	
総額	180,000	180,000	180,000	180,000	171,000	136,800	125,300	

※単価は、青年部・女性部両部設置の額

この後、昭和55年には道内商工会の青年部が完全結成され、部員数においても6,182名とピークを迎え、組織は充実期に向かうこととなる。

昭和56年には、商工会法の一部改正を受けて、商工会の定款に青年部・婦人部の位置づけが明記されるとともに、青年部長等に会員資格を付与することで商工会役員への登用の道が拓かれ、青年部は名実ともに商工会活動の中核をなす実践者としての位置づけが明確になった。

組織充実期となる昭和57年以降は、小規模事業者の経営近代化・合理化や人的ネットワークの形成が求められており、昭和58年から(株)西友の協力の下で実施された「若手後継者等体験研修事業」（平成2年まで）や昭和61年から実施され、現在の事業の礎となっている「経営者育成異業種交流事業」（平成13年まで）などの事業を展開した。

結成20周年を迎えた昭和61年には記念事業として海外経済視察研修を実施し、北海道の姉妹都市であるカナダのアルバータ州を39名が訪問した。

また、全国的な流れを受け昭和62年5月には「北海道商工会連合会青年部」から「北海道商工会青年部連合会」へと名称変更がなされた。

時代が平成へと移り道内の青年部員数が4,782名と5,000名を割った平成2年、道商工青連は北海道の協力要請を受け、11月に東京都渋谷区代々木公園において開催された「北海道フェアin代々木」に93名の青年部員を派遣し、31万人の入場者へ道産品の紹介・販売、観光の紹介などを行い北海道の魅力をアピールした。同事業への参画は平成6年まで続けられた。

平成4年2月には、結成25周年記念式典が開催され、新規事業として道商工青連情報「巡」を発行し、青年部活動の周知が行われた。

平成6年からは交通安全全道統一事業が実施され、全道一斉の「全道商工会交通安全ラリー作戦」や意識啓発運動を実施した。この事業は平成10年から交通遺児募金に移行し、現在も継続されている。この間、道商工青連は結成30周年となり、平成9年2月に記念式典が開催された。また、道内の青年部員数は平成7年に4,000名を割り、3,656名となった。

3 経済環境の変化と事業展開の動き

平成9年11月、バブル景気をもたらした過大な不良債権により北海道拓殖銀行が破綻し、北海道経済及び地域商工業者を取り巻く経営環境が、これまでにない一大転機を迎える中、平成10年には地域再生を図る原動力とすることを目的に、第1回目となる商工会青年部全国大会が、札幌市（平成11年2月）において開催され、全国から約2,400名の部員が参加した。なお、現在も全国の青年部員が唱和している「商工会青年部宣言」は本大会での北海道宣言として決議されたものである。

また、平成11年12月には、中小企業基本法が改正され、政策理念は、従来の「（大企業との）格差の是正」から「独立した中小企業の多様で活力ある成長発展」へと転換し、中小企業者の自主自立を促すものとなった。

加えて、平成12年度をもって「青年部・婦人部活動推進費」が終了し、都道府県連に若

手後継者等育成事業費が予算化された。

このような環境下、道商工青連では、青年部の人脈を活用した人的ネットワークづくりを目的とした事業である同業種交流事業を活用し、平成10年度から酒販店により模索してきた「青年部オリジナルの酒」づくりの検討が、新十津川町の金滴酒造の協力を得て開始された。

全道の青年部員によりネーミングなどの協議がなされた結果、比布商工会青年部が名称応募した「粹青（粹な青年部の意）」が採用され平成12年7月に全道一斉販売されることとなった。

また、平成18年度には第2弾として大滝村（現伊達市）産アロニア使用の果実酒「すいせいの実」が製造販売された。

平成14年以降は、中小企業基本法改正を背景として、法の基本方針が経営革新・創業に転換したことに加え、北海道が平成15年に策定した「経営改善普及事業実施体制マスタープラン」により商工会は合併・広域連携を視野に入れた組織体制の見直しを検討することとなった。

これらの政策に対応するため、道商工青連においても新たな事業展開が求められ平成15年から広域的な事業展開により起業化の可能性を模索する「広域事業展開促進事業」や新連携事業などの構築を目指すための事業として「ビジネスステップアップ支援事業」、「企業間交流事業」などを実施した。この動きが後述する「商品力強化支援研究会」や「後継者育成塾」などの企業支援事業へ継承されることとなる。

平成14年には青年部員数が3,000名を割込み、道商工青連においても、全国商工会青年部連合会から示された「青年部員資格を男子に限定しない」資格緩和案を検討することとなった。

このことにより平成15年11月、道商工青連と道商工女性連の合同会議の場において青年部員資格緩和について協議が行われ、女性部の理解もあり女性の加入については各商工会の判断により選択することとし、「40歳以下の女性」が青年部に加入できることとなった。

更に、結成40周年を迎えた平成19年以降は、青年部員の減少に歯止めがかからない状況であり、平成24年度には遂に2,000名を割ることとなり、平成26年度に組織維持のため年齢制限引き上げを実施することとなった。

また、この厳しい組織体制において組織強化とビジネスチャンスの拡充強化の両面からの事業展開を進めるため、道商工青連は、「全道青年部員のネットワークとスケールメリットを最大限に活かした企業支援」を基本方針に掲げ、企業支援事業中心の内容に転換した。現在も継続されている「経営者育成連携促進事業」や「エクセレントカンパニー視察研修」、「後継者育成塾」などが事業化されたのはこの時期である。

平成26年度6月には小規模企業振興基本法が制定され、これまでの中小企業基本法の基本理念であった「成長発展」のみならず、「事業の持続的発展」が位置づけられたことにより、「小規模企業の持続的発展へ向けた伴走型支援」が商工会における最も重要な使命となった。

道商工青連は、この「持続的発展」に向けた取組みを先んじて行ってきており、今後も新たな時代の実践者としての期待は大きい。

〈道内商工会の青年部及び部員数の推移〉

年度	調査月日	商工会数	部数	部員数	年度	調査月日	商工会数	部数	部員数
昭和41	41. 8. 12	167	55	1,974	平成3	3. 7. 1	180	180	4,654
同	42. 2. 5	167	91	3,249	4	4. 7. 1	180	180	4,398
42	42. 8. 15	167	120	4,110	5	5. 7. 1	180	180	4,276
43	43. 7. 31	167	143	4,950	6	6. 7. 1	180	180	4,142
44	44. 8. 31	169	158	5,207	7	7. 7. 1	180	180	3,656
45	45. 8. 31	170	163	5,267	8	8. 7. 1	180	180	3,531
46	46. 8. 31	171	162	5,333	9	9. 7. 1	180	180	3,468
47	47. 9. 30	172	164	5,354	10	10. 7. 1	180	180	3,264
48	48. 9. 30	172	167	5,601	11	11. 7. 1	180	180	3,197
49	49. 9. 30	173	169	5,451	12	12. 7. 1	179	179	3,087
50	50.10. 1	173	170	5,557	13	13. 7. 1	179	179	2,980
51	51.10. 1	173	171	5,587	14	14. 7. 1	178	178	2,879
52	52.10. 1	173	170	5,532	15	15. 7. 1	178	178	2,775
53	53.10. 1	175	173	5,824	16	16. 7. 1	178	178	2,681
54	54.10. 1	178	175	6,023	17	17. 7. 1	178	178	2,559
55	55.11. 1	178	178	6,182	18	18. 4. 1	170	170	2,813
56	56. 7. 31	178	178	6,068	19	19. 4. 1	162	162	2,326
57	57. 7. 31	178	178	5,915	20	20. 4. 1	156	156	2,230
58	58. 7. 1	179	178	5,786	21	21. 4. 1	154	154	2,193
59	59. 7. 1	179	178	5,708	22	22. 4. 1	154	154	2,101
60	60. 7. 1	179	179	5,572	23	23. 4. 1	153	153	2,029
61	61. 7. 1	179	179	5,567	24	24. 4. 1	152	152	1,945
62	62. 7. 1	180	179	5,437	25	25. 4. 1	152	152	1,844
63	63. 7. 1	180	180	5,263	26	26. 4. 1	152	152	1,776
平成元	元. 7. 1	181	181	5,058	27	27. 4. 1	152	152	1,820
2	2. 7. 1	180	180	4,782	28	28. 4. 1	152	152	2,061

- ※昭和41年8月は、「商工会青年部・婦人部の設置状況」調査（回収率81.5%）
 昭和42年2月は、「本道における商工会青年部の設置状況」調査（回収率72.5%）
 昭和42年8月は、「本道における商工会青年部の設置状況」調査（回収率75%）
 昭和43年以降は、「本道における商工会青年部・婦人部（女性部）の現況」調査による。
 ※「部員数」は、平成6年度まで賛助部員を含む。

商工会青年部の年齢制限引き上げの経緯について

青年部の年齢引き上げについては、平成20年に開催された移動全国連における年齢制限の拡大についての要望によるものであった。

これを受け全国商工会青年部連合会にて審議し平成20年度に47都道府県青連会長にアンケートを実施した結果、「40歳にて卒部後、真の経営者となるべく家業を強くしていくべき」、「40歳までの年齢制限があるからこそ全力で活動できる」などの理由で引き上げを希望しない青連が多数を占め、引き上げを行わないこととなり、道商工青連においても同様とした。

しかしながら、高齢化・過疎化等の進展による人口減少や地域コミュニティ機能の衰退など、地域の活力の低下に歯止めがかからず、中小・小規模企業を取り巻く環境は依然として厳しい状況である中、全国の青年部においても加入者が減少しており早急に対策の必要があり、平成26年3月の全国連理事会において青年部員資格について審議がなされ年齢制限を満45歳以下とすることが承認された。

道内青年部としても、昭和55年度の部員数6,182名をピークに年々減少し続けており、平成24年度では1,945名と2千人を割り、年齢構成も36歳から40歳までが全体の4割以上となっており、今後の青年部活動に支障をきたす可能性があったため、平成25年度の道青連理事会において、年齢制限の引き上げについて決定した。

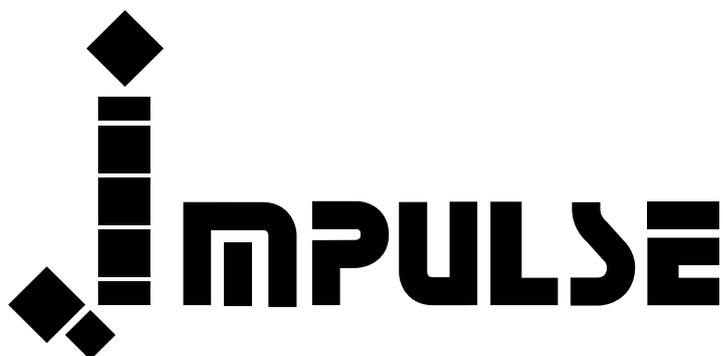
このことにより、道商工連では各商工会及び青年部に対して平成26年度から平成27年度の2ヵ年間で商工会定款及び青年部規約の改正を推進していくこととなった。

平成26年度で55青年部、平成27年度で96青年部と2年間でほぼ全ての青年部が年齢制限の引き上げを行った結果、平成24年度より2千人を割っていた部員数が増加し平成28年度の実態調査においては、5年ぶりに2千人台までに回復した。

第3章

現在の道商工青連事業

(平成19年度～若手後継者等育成事業中心)



1 若手後継者等育成事業の推移

現在、道商工青連事業の中心となっている若手後継者等育成事業は、各単会に補助されていた「青年部・婦人部活動推進費」が平成13年から道商工連へ移管され予算措置されたものである。

青年部・婦人部活動推進費は昭和53年から平成12年まで予算措置され、平成5年度から平成9年度には最高額となる100万円（全道総額1億8,000万円）が配分された。各単会ではこの補助金を活用し、地域振興事業及び部員の資質向上を図るための研修会・講習会開催事業、視察研修事業等を実施した。

若手後継者等育成事業が道商工連所管となったことにより、道商工青連は、これまで実施してきた指導者育成事業及び経営者育成事業に加え、各単会が実施する地域振興事業への側面支援の役割も担うこととなった。

移管当初の事業費は7,000万円であったが、逡減され平成19年には半減し、平成21年からは概ね3,000万円で推移している。

事業内容は、大別すると指導者育成事業、経営者（後継者）育成事業、地域振興事業の3事業に分類され、平成18年までは指導者育成事業及び地域振興事業に重心が置かれ、平成13年から平成18年度までの両事業費の割合は全体の約85%となっている。

平成19年度、道商工青連は基本方針を「ネットワークとスケールメリットを最大限に活かした企業支援」と定め、若手後継者等育成事業の内容を一新して事業展開することとし、部員企業の「商品開発」「販路開拓」の支援を行う『経営者育成連携促進事業』や工業系部員企業の工程管理等の向上を目指した『エクセレントカンパニー視察研修事業』、後継者の事業承継を支援する『後継者育成塾』といった新たな企業支援事業を実施することで幅広い業種における企業支援を実現し、大きな成果を上げている。

このことにより、ここ数年、経営者（後継者）育成事業の実施割合は50%超となり、事業内容は大きく転換された。

〈若手後継者育成事業の推移〉

事業名	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
活動推進事業(中央研修会)	446	410	425	421	918	515	460	565	471	485
経営研修会開催事業	2,594	2,326	3,810	3,675	5,074	4,082	3,990	4,737	6,218	7,120
代表者視察研修事業	3,458	3,973	3,179	3,166	3,668	3,709	3,344	3,308	3,480	4,150
東北交流研修会事業	2,602	4,452	2,995	4,062	1,418	3,201	3,140	3,329	3,819	3,360
地域振興パイロット事業	21,681	15,850	10,256	11,291	9,035	9,659	7,811	4,843	5,718	6,095
経営者育成連携促進事業	3,923	5,472	8,674	8,353	8,393	7,624	7,510	9,013	9,333	8,990
I T支援強化事業	3,130	1,160	878	416	672	607	406			
事業費計	37,834	33,643	30,217	31,384	29,178	29,397	26,661	25,795	29,039	30,200

※平成19～平成27年度は決算額、平成28年度は当初予算額

2 経営者育成連携促進事業：商品力強化支援研究会

商品力強化支援研究会は、道商工青連の平成19年度からの方針転換の象徴ともいえる事業であり、青年部員企業の取扱う商品には、クオリティが高いにも関わらず、経営資源の不足等により埋もれているモノが多くあり、そうした企業に対し「商品開発及びブラッシュアップ」から「販路開拓」までの継続した支援を行い、商品力を強化することで知名度を上げ販売促進に繋げることを目的として企画された事業である。

道商工青連は「スケールメリットとネットワーク」を活用し、地域に埋もれている商品を掘り起こすとともに、開発された商品のマーケティング調査を全道各地で実施するなどの支援を行ってきた。

また、販路開拓支援として道商工連主催の「販路開拓支援事業展示・商談会」や中小企業基盤整備機構や北海道貿易物産振興会などが主催する商談会等への出展支援を行った。平成21年度からは全国最大規模であるスーパーマーケットトレードショーへの出展支援を実施し、道外への販路も模索しているところである。

本事業には平成28年度までの10年間で延べ132企業が参加し、それぞれが成果を上げおり、中でも「中標津町：味のオーハシ（参加者：大橋勝憲）」のように本研究会において開発した商品（焼きドーナツ）が大ヒット商品となり、新千歳空港や東京駅に単独店舗を開設するまでに成長した企業も現れた。

まさにMade in青年部の商品が高い評価を受けていることで、参加企業の商品が各種テレビ・新聞等のパブリシティに取り上げられる機会も増えており、今後の更なる成果が期待される。



平成19年度 第1回研究会



平成28年度 商品求評会



平成22年度 スーパーマーケットトレードショー



中標津町：味のオーハシ・ジェラートシレトコ

〈平成19年度参加企業（第1期生：9名）〉

商工会	企業名	開発・改良商品等
石狩北	(有)ふじみや製菓	ジャンボどら焼
乙部町	(有)富貴堂	ゆり最中
上富良野町	(有)菓子司あかがわ	ギフト用焼き菓子
枝幸町	(有)三興水産	かすべの唐揚げ
訓子府町	(有)日の出めん	オホーツク名産うどん
洞爺湖町	(有)岡田屋	白いおしるこ
洞爺湖町	(有)羊蹄食品	納豆
厚岸町	(有)厚岸海産	イサダの佃煮
標茶町	(株)ハナ藤花温泉ホテル	カレールー

〈平成20年度参加企業（第2期生：12名）〉

商工会	企業名	開発・改良商品等
北広島	お菓子の安寿真	琥珀の雪、カステラ
北斗市	新設工業(株)	燻製たまご北斗物語
乙部町	(有)富貴堂	ゆり最中ゆりあんパイ
共和町	三田農林(株)三田牧場	アイスクリーム
上富良野町	(有)菓子司あかがわ	ラベンダー
和寒町	(株)冬音(とうね)	キャブツリ、おからショコラ
大空町東藻琴	大空フーズ	ソーセージ
えんがる	(有)白楊舎	缶詰(めしの素)
洞爺湖町	(有)岡田屋	ホタテせんべい
新ひだか町	ウツ共同養鹿加工組合	えぞ鹿肉ソーセージ等
更別村	お菓子のニシヤマ	cowマンベールケーキ
中標津町	味のオーハシ	生キャラメル

〈平成21年度参加企業（第3期生：15名）〉

商工会	企業名	開発・改良商品等
北斗市	(有)末廣軒	恋苺ロール
江差	Cafe&Sweets 壱番蔵	生マシュマロ(ギモーブ)
共和町	(有)本間製菓	スイカ糖
和寒町	(株)冬音(とうね)	オカラショコラ
天塩	(有)くさかり	黒いプリン
豊富町	川島旅館	白いプリン
礼文町	野崎水産	生うに製品
えんがる	(有)白楊舎	とりごぼう飯の素
佐呂間町	御菓子司くどう	チーズスティック
洞爺湖町	(有)羊蹄食品	納豆・トコロテン
池田町	寿し処 寿楽	十勝ワインうどん
釧路町	兼芳新潟屋 前商店	特選ローズジンギスカン
厚岸町	(有)厚岸海産	いさだの佃煮
標津町	ぎんれい精肉店	ジンギスカンのたれ
中標津町	(株)味のオーハシ・ジェラートシレット	焼きドーナツ

〈平成22年度参加企業（第4期生：15名）〉

商工会	企業名	開発・改良商品等
北斗市	(有)末廣軒	十勝粒あんプリン(仮)
長万部	サン・ミート木村	アン・フロマージュ(仮)
今金町	(有)小川食品	醤油ホルモンレトルトパック
上富良野町	(有)菓子司あかがわ	道内産大豆のみで作られた油揚げ
和寒町	(株)冬音(とうね)	豆を使った焼き菓子
天塩	天塩協同印刷企業組合(てしお夢工房)	ホルモン鍋
豊富町	川島旅館	しじみパイ
礼文町	野崎水産	川島旅館の白いプリン(ノーマル/特濃)
えんがる	(有)白楊舎	うにクラゲ、蒸しアワビ
佐呂間町	かぼちゃん本舗	お豆たっぷり国産五目ごはん
洞爺湖町	御菓子司 大月	チーズスティック
釧路町	ミートショップ 小久保	モナーカ 牧場のまじり肉
厚岸町	兼芳新潟屋 前商店	ラムジンギスカン(ハッパジ)
中標津町	(株)おかわり本舗	味付ジンギスカン
羅臼町	カネサン佐藤	味付ローズジンギスカン
		韓国風ピリ辛塩辛
		ホタテミミチョ
		メぼっけ、いくら明太

〈平成23年度参加企業（第5期生：15名）〉

商工会	企業名	開発・改良商品等
当別町	(有)浅野農場	商品パッケージの改良
当別町	小林商店	揚げ蒲鉾
北斗市	(有)末廣軒	焼き菓子、モナスク(材の皮にサブリ生地を入れ、焼いたもの)
長万部	(有)サン・ミート木村	商品パッケージの改良(各種ホルモン)
喜茂別町	藤田菓子舗	焼きドーナツ
浦臼町	宮野商事(株)焼きとり力史	焼きとり弁当
鷹栖町	(株)祭饗	牛スジの煮込み
下川町	矢内菓子舗	北のすいーつようかん
清里町	エムケー食品(株)	ザワークラウト(ヨーロッパのキャベツの塩漬け)
本別町	(有)松月堂	地場産の豆を使用した地元ならではの商品
釧路町	兼芳新潟屋 前商店	海藻ポークジンギスカン 海藻ポークスペアリブ
弟子屈町	(株)みどり工房	しかうしハンバーグ
中標津町	フランダース中標津店	ロールケーキの商品改良等
中標津町	(株)おかわり本舗	既存商品のパッケージ 新商品の開発
羅臼町	カネサン佐藤	ほっけスティック、明太イクラ、塩イクラ

〈平成24年度参加企業（第6期生：14名）〉

商工会	企業名	開発・改良商品等
北広島	お菓子の安寿真	メープル菓子全般(グリン、サブリ、クッキー等)
えんがる	(有)白楊舎	既存商品(飯の素シリーズ)の改良等
共和町	(有)本間製菓	地元産品を使用したスイートポテト
長万部	サン・ミート木村	・ハンバーグ(長万部産黒豚、道内産黒毛和牛) ・おぼろぎの味を加えたホルモン
中標津町	(株)おかわり本舗	新商品の開発
下川町	矢内菓子舗	生ちーずろーる
清里町	エムケー食品(株)	えだ豆漬
弟子屈町	(株)みどり工房	新商品：別海ハーフ和牛を使用した「にくまん」 既存商品改良計画：ハーフ和牛ハンバーグ他
中標津町	フランダース中標津店	スティックチョコケーキ、ロールケーキタイプ
厚沢部	(有)渡田産業	乾燥まいたけを使用した加工品
奥尻	さとう食材	「奥尻海峡漬け」ウニと蒸し鮑のスライスが入った瓶詰め
留寿都	邂逅	大根揚げ、長いも揚げ、塩糍、べつたら漬けたくあん等のパッケージ
訓子府町	ぶらっとカフェ駅茶屋	井のタレ・唐揚げの素等
中標津町	(株)なかしん	家庭で使える簡単調味料の製品化 エッジング加工品湯のみ・焼酎ボトル

〈平成25年度参加企業（第7期生：14名）〉

商工会	企業名	開発・改良商品等
北斗市	(有)末廣軒	・ふんわりバフサンド ・ショートブレッド
長万部	(有)サン・ミート木村	純粋黒豚六泊チャーシュー
厚沢部	(有)渡田産業	きくらげチップス
奥尻	さとう食材	うにルイベ
留寿都	邂逅	ルスト高原ポークの味つけサガリ
喜茂別町	炭火焼き このみ	地場産の食材を活かしたクレープ
下川町	矢内菓子舗	・生クリームあんぱん ・雪ふりプリン
佐呂間町	かぼちゃん本舗	プチモチシュー
えんがる	(有)白楊舎	ポトフ缶
新得町	(株)上田精肉店	エゾ鹿肉スライス
釧路町	兼芳新潟屋 前商店	・くしろ海藻ぶたまん ・くしろ牛ぶたまん
中標津町	(株)なかしん	エッジング加工品 湯のみ・焼酎ボトル
中標津町	小山観光(有)	入浴剤
羅臼町	カネサン佐藤	知床パーク

〈平成26年度参加企業（第8期生：12名）〉

商工会	企業名	開発・改良商品等
北斗市	(有)末廣軒	ずーしーほっきーモナスク
北斗市	(有)澤田米穀店	ずーしーエクレーア
長万部	(有)サン・ミート木村	ずーしーほっきーメーバルカレー
厚沢部	(有)渡田産業	醤油ホルモン缶詰
今金町	(有)小川食品	まいたけチップス
喜茂別町	炭火焼き このみ	鶴の子アイス黒豆アイス
えんがる	(有)白楊舎	地場産の食材を活かしたクレープ
本別町	(有)源すし	ぜんざいシリーズ かぼちゃ・栗
釧路町	兼芳新潟屋 前商店	ほんべつ黒豆うどん
中標津町	小山観光(有)	・くしろ海藻ぶたまん ・くしろ海藻牛ぶたまん
中標津町	(株)Flanders	ようろうし温泉のもと(入浴剤)
羅臼町	カネサン佐藤	ドーナツ スティックケーキ(プレーン)
		知床漬

〈平成27年度参加企業（第9期生：15名）〉

商工会	企業名	開発・改良商品等
当別町	そば切り高陣	野菜ソムリエのつくるスープカレー
北斗市	南澤田米穀店	北海道産ごはんと一緒にシリーズ
八雲	南くら屋菓子舗	塩キャラメルプリン
今金町	南小川食品	鶴の子油揚げ
共和町	南本間製菓	かかしどら
江部乙	ファームキッチン フジタ	グレンのガラードライフルーツ
南富良野町	鳥羽農園	鳥羽農園の手しぼりミントジュース
朝日	リカー&フードかわ井	あさ飛寿司
天塩	南宇野牧場	トロケッテ・ウーノ
猿払村	海王食品(株)	ねり貝柱、貝ひもの山わさび漬 ほたて貝柱、貝ひものオイル漬
豊富町	かしうら板金工業	北海道とよとみみるくラッドン
本別町	南源すし	キレイマメドレッシング
鶴居村	HOTEL TAITO	美人の湯
中標津町	南Flanders	もちくりーむ
羅臼町	南ケミクル	SHIRETOKO RAUSUいきどまり洋食店

〈平成28年度参加企業（第10期生：11名）〉

商工会	企業名	開発・改良商品等
当別町	そば切り高陣	野菜ソムリエのつくるスープカレー
今金町	南小川食品	豆腐が作る手作りラーメン
共和町	南本間製菓	中華まんじゅう
秩父別町	加工室タピタ	大福
北竜町	黒千石事業協同組合	黒千石と米粉のソフトケーキ 黒千石のガラード
朝日	リカー&フードかわ井	羊麵包
苦前町	呑み喰い処 山海幸	かすべのベーコン
天塩	南宇野牧場	トロケッテ・ウーノ
湧別町	南橋本商店	チュールリップパウダー
更別村	お菓子のニシヤマ	すもものペイクドチーズケーキ
羅臼町	南ケミクル	SHIRETOKO RAUSU selection 各種

3 エクセレントカンパニー視察研修事業

エクセレントカンパニー視察研修事業は、前述した「商品力強化支援研究会」が食品製造業の青年部員を対象としているのに対し、機械工業系の青年部員企業を対象に、新技術の導入や工程管理・衛生管理等の観点から道内の先進的な取組みを行っている優良企業を視察し、その取組み及び成果・効果を研修し吸収することで経営革新に繋げることを目的として企画された事業である。

企画段階では、「商品力強化支援研究会」と同様に青年部員企業の経営課題に対し、継続して支援するスキームで検討したが、対象となる青年部員企業の経営課題が多岐に亘り、また、専門性の高い内容が想定されたため、上記のように、特定の優良企業の取組みから学び取る形式での実施となった。

平成19年からの10年間で道央・道南・道北・道東の各ブロックの優良企業20社を訪問し、延べ264名が参加している。



足寄町 日農機製工(株)視察



石狩市 株式会社双葉工業社視察

〈エクセレントカンパニー視察研修開催状況〉

年度	開催日	視察先企業	参加者
H 19	H20. 2. 29	足寄町 日農機製工(株)	24名
		音更町 (株)柳月	
	H20. 3. 17	小樽市 (株)光合金製作所朝里工場 井原水産(株)	28名
H 20	H20. 11. 20	北斗市 (株)フジワラ 函館市 (株)東和電機製作所	28名

H 21	H21. 9. 16	旭川市 正和電工 (株) 砂川市 ソメスサドル (株)	23名
	H22. 1. 25	札幌市 北原電牧 (株) 昭和レーベル印刷工業 (株)	25名
H 22	H22. 10. 26	釧路市 (株) 昭和冷凍プラント (株) ニッコー	28名
H 23	H23. 10. 7	赤平市 (株) 植松電機	29名
H 24	H24. 11. 2	旭川市 白井鋳鉄工業 (株)	20名
H 25	H26. 3. 6	札幌市 (株) 特殊医療	12名
H 26	H26. 10. 14	釧路町 (株) 高橋商会 釧路衛星 (株)	20名
H 27	H27. 11. 19	石狩市 (株) 双葉工業社 (石狩工場、はまなす工場)	15名
H 28	H29. 3. 2	札幌市 パワープレイス (株) (札幌オフィス) 総合商研 (株) (本社、札幌工場)	12名

4 後継者育成塾

本事業は中小・小規模企業を取り巻く環境の厳しさが増していく状況下で、後継者である青年部員が経営者になるための準備と将来の円滑な事業承継を図ることを目的に平成20年度から実施している。

当初から座学だけではなく、複数の講師陣によるグループワークでの実習を中心としたカリキュラムとし、自社の経営内容を分析することからはじめ、金融機関が企業の決算書の「どこを見てどのように判断するのか」や、自社の経営内容から導き出される課題の改善計画の作成などを盛り込んだ3日間の日程で実施してきた。

平成23年度からは、基礎研修の受講者を対象とした自社の経営改善や事業発展に向けた計画力を養成することに重点を置き、改善計画の事例演習と自社の改善計画策定を中心とした内容のステップアップコース（2日間）を2ヵ年実施した。

平成24年度からは自社の「あるべき姿」を本気で考え、更なる企業力向上を図るために経営革新計画の承認を目指す部員に対して事例演習を含め自社の経営革新計画策定を中心とした経営革新コース（4日間）を実施している。

受講した青年部員から本研修の経験を活かし経営革新計画を承認された企業も輩出され、また、企業の持続的発展に向けた小規模事業者持続化補助金やものづくり補助金などを積極的に活用している。

近年においては本事業の重要性が各管内青年部単位に広く認識され、参加者も増加してきており道商工青連事業の中核を担う事業となっている。



基本コース



経営革新コース

〈後継者育成塾の推移〉

年度	基本コース	ステップアップコース	経営革新コース	年度	基本コース	ステップアップコース	経営革新コース
H 20	17名	－	－	H 21	12名(一般) 9名(役員)	－	－
H 22	11名(道東) 12名(道央)	－	－	H 23	15名(道央) 9名(道南)	19名	－
H 24	12名	10名	10名	H 25	10名	－	9名
H 26	13名	－	6名	H 27	17名(札幌) 6名(北見)	－	14名
H 28	25名(札幌) 7名(旭川)	－	16名				

5 地域リーダー養成事業

商工会地域においては、高齢化・過疎化等の進展による人口減少や地域コミュニティ機能の衰退など、地域の活力の低下に歯止めがかからない環境下において、地域活動の中核として活動する青年部員が、地域を牽引し、活性化するための知識の習得と、地域産業を活性化させることによる持続可能な地域経済を作り出す地域リーダーの養成を目的に実施し、平成26年度は24名、平成27年度においては3回実施し延べ40名の青年部員が参加した。

この研修により今後の環境変化を正確に捉えて、正しく考える能力の重要性を理解し、地域リーダーとして外から資金を呼び込む力と地域内で資金を循環させる力を養い、リーダーシップ力を発揮して新事業やビジネスを生み出す手法を学ぶなど、持続可能な地域経済を作り出すためのリーダーとしての資質向上が図られた。

また、企業経営についても人間的な成長が必要であり、青年部活動を通じた地域リーダーのあるべき姿が参加者に認識された。

平成28年度においては、結成50周年事業として位置づけ、テーマとして掲げた「先人達と共に未来へつなぐ意思 ～故郷を想い、仲間と共に、50年後の大切な後輩達のために～」の下、各分野において第一線で活躍する青年部OB等を講師として招聘し実施した。(内容については50周年事業の概要を参照)



平成26年度 地域リーダー養成事業



平成28年度 地域リーダー養成事業

〈地域リーダー養成事業参加状況〉

年度	第1回	第2回	第3回	年度	第1回	第2回	第3回
H 26	24名	－	－	H 27	13名	13名	13名
H 28	22名	23名	－				

6 地域振興パイロット事業・ベンチャーキッズ支援事業

平成13年度に単会における、青年部・女性部活動推進費が道商工連に移管されたことにより、道商工連が若手後継者等育成事業の一環として地域振興事業に取り組むこととなった。

移管当初の平成13年から、各管内が主体となって「広域振興事業」を実施し、平成14年からは複数の商工会が広域連携により実施する「地域振興パイロット事業」が事業化された。

平成18年度からは、両事業が統合され「地域振興パイロット事業」として現在まで実施している。

また、平成18年度に事業化された「ベンチャーキッズ支援事業」は、企業の後継者である青年部が更に次世代の後継者を育成する趣旨の事業であり、子供たちに仕入れや販売、更に金融機関からの借入れなど企業経営の体験実習を行い、商売の楽しさや企業家精神を醸成するための取組みを行っている。

地域振興パイロット事業は平成19年まで若手後継者等育成事業の中で一番大きな割合を占めていた事業であるが、平成23年度から事業費総額が通減したことも影響し、現在は減少傾向にある。

事業内容は、地域資源を活用した「特産品開発事業」及び「観光振興事業」が中心であり、近年では特産品開発事業の中から大空町商工会青年部が3年がかりで開発した「しじみ醤油」など町を代表する特産品にまで成長した商品も登場した。



パイロット事業（大空町：しじみ醤油）



ベンチャーキッズ支援事業：鹿追町

<平成19年度・地域振興活動パイロット事業>

幹事商工会名	事業名
喜茂別町（青・女）	ニセコ羊蹄山麓コロケ街道
新篠津村	"2007地域活性化への新たな挑戦" キッズチャレンジコンベンション
新十津川町	地域特産品開発・観光PR促進事業
苫前町	「未来のボクたち、ワタシたち」
天塩	「天塩川河口流域を考えるプロジェクト」
新ひだか町	『日高の逸品で“甦れ日高”』日高の特産品開発及び地場産業の振興支援事業
訓子府町	オホーツクブランドスペシャル
えんがる	「スローフード（北大雪のめぐみ）無添加ジャム開発事業」
陸別町	「遊・誘（ゆう・ゆう）とかち」体感事業
白糠町	釧路西部商工会広域連携事業「ふれあい交流体験事業」
弟子屈町	地産地消・循環型経済を目的とした「エゾシカバーガー」FC事業
新ひだか町（女）	「環境保全美化運動」～ハマナスマイルinひだか～
上富良野町	ベンチャーキッズ事業
鹿追町	ベンチャーキッズ支援拡充事業

<平成 20 年度・地域振興活動パイロット事業>

幹事商工会名	事業名
北広島	★キッズ トライコンペティション★キッズ健やかレクリエーション
天塩	オロロンライン大作戦
大空町東藻琴	大地からの S O S (Standard out side) 発掘隊～エコから食育へ～
えんがる	「スローフード」(北大雪のめぐみ) 無添加ジャム開発事業
新ひだか町	「日高路の食資源開発及び地域産業支援事業」 甕れ日高 日高の特産品開発及び地場産業の振興支援事業
釧路町	釧路管内新ご当地グルメ開発研究事業
洞爺湖町	洞爺湖修景事業「花プロジェクト」
風連	かみかわ “食の安心・安全” ブランド拡張事業
興部町	続・オホーツク特産品発掘スペシャル
新ひだか町(女)	「環境保全美化運動」～ハマナスマイル in ひだか～
新十津川町	新竜ベンチャーキッズ支援事業
喜茂別町	こどもチャレンジショップ事業
釧路町	ベンチャーキッズ支援拡充事業

<平成 21 年度・地域振興活動パイロット事業>

幹事商工会名	事業名
共和町	「岩宇広域連携 ふるさと おまつりめぐり」
豊富町	北限への挑戦！酪農から脱却した特産品開発～サバツの砂を利用したスィカ・メロンの栽培調査
大空町東藻琴	大地からの S O S (Standard Out Side) 発掘隊 ～エコから食育へ～
白糠町	釧路管内新ご当地グルメ開発研究事業
新十津川町	新竜ベンチャーキッズ支援事業
いわみざわ	北村・栗沢町ベンチャーキッズ支援事業
北広島	ベンチャーキッズ支援拡充事業
中標津町	ベンチャーキッズ支援事業

<平成 22 年度・地域振興活動パイロット事業>

幹事商工会名	事業名
北斗市	「道南発・食のビジネスマッチング支援事業」
真狩村	羊蹄山麓地域観光ガイド育成事業
新十津川町	日本酒を核とした、地域資源を守り育てる P R ・ 調査事業
豊富町	北限への挑戦！酪農から脱却した特産品開発～サバツスィカ・メロンの加工製品開発事業
大空町東藻琴	大地からの S O S (Standard Out Side) 発掘隊 ～エコから食育へ～
白糠町	釧路管内新ご当地グルメ開発研究事業
当別町	石狩ベンチャーキッズ支援事業
中標津町	根室管内ベンチャーキッズ支援事業

<平成 23 年度・地域振興活動パイロット事業>

幹事商工会名	事業名
豊富町	北限への挑戦！酪農から脱却した特産品開発による温泉振興の調査研究事業
興部町	「興部」新ご当地グルメ開発研究事業
鹿追町	西十勝 C 級グルメ開発全国展開事業
白糠町	釧路管内新ご当地グルメ知名度向上及び販路拡大事業
佐呂間町	ご当地グルメ発掘・S-1 グルメグランプリ開催
北斗市	北海道新幹線開業による道南特産品研究事業
月形	ベンチャーキッズ支援事業
音更町	ベンチャーキッズ支援事業

<平成 24 年度・地域振興活動パイロット事業>

幹事商工会名	事業名
東川町	『KMK23 かみかわ 麺でつなぐ絆 プロジェクト』 上川管内産米を活用した「麺商品」開発と農畜産物を活用した「麺料理」開発
苫前町	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業 西海岸の魅力発信：『周回遅れのトップランナー』プロモーション作戦
訓子府町	K S J 4 8 商店街や町内施設を利用しやすい環境を提供する『サロン・ガ・デン・タウン』の実現
興部町	「興部」新ご当地グルメ開発研究事業
壮瞥町	胆振特産品高付加価値中華まんじゅうプロジェクト
鹿追町	西十勝 C 級グルメ開発全国展開事業
幕別町	まくべつご当地新レシピ開発・発信促進事業
厚沢部	ベンチャーキッズ支援事業

<平成 25 年度・地域振興活動パイロット事業>

幹事商工会名	事業名
東川町（上川管内 22商工会）	『KMK23 かみかわ 麺でつなぐ絆 プロジェクト』 ～komekoパスタによる新しい食の発信とブランドの構築事業～
大空町 興部町 （西興部村）	～おおぞらの・農商工連携～ 農水産品を活用した地域ブランドづくり “興恵グルメ” 発信促進プロジェクト ～元気で明るい“未来のまちとむら”作り～
壮瞥町 （洞爺湖町、安平 町、むかわ町）	胆振特産品高付加価値化プロジェクト ～胆振知名度向上大作戦～
幕別町	まくべつご当地新レシピ開発・発信促進事業
阿寒町 （弟子屈町）	ご当地ドリンクと観光資源を生かした地域振興事業 『地域の魅力がいっぱいの一杯から観光を盛り上げよう！』
厚沢部（江差）	松山管内ベンチャーキッズ支援事業
留寿都（真狩村）	留寿都村・真狩村ベンチャーキッズ支援事業

<平成 26 年度・地域振興活動パイロット事業>

幹事商工会名	事業名
東川町（上川管内 22商工会）	『KMK23 かみかわ 麺でつなぐ絆 プロジェクト』 ～komekoパスタによる新しい食の発信とブランドの構築事業～
大空町 興部町 （西興部村）	～おおぞらの・農商工連携～ 農水産品を活用した地域ブランドづくり “興恵グルメ” 発信促進プロジェクト ～元気で明るい“未来のまちとむら”作り～
壮瞥町（洞爺湖町 安平町、むかわ町）	胆振特産品高付加価値化プロジェクト ～胆振知名度向上大作戦～
幕別町	まくべつご当地新レシピ開発・発信促進事業
阿寒町 （弟子屈町）	ご当地ドリンクと観光資源を生かした地域振興事業 『地域の魅力がいっぱいの一杯から観光を盛り上げよう！』
厚沢部（江差）	松山管内ベンチャーキッズ支援事業
留寿都（真狩村）	留寿都村・真狩村ベンチャーキッズ支援事業

<平成 27 年度・地域振興活動パイロット事業>

幹事商工会名	事業名
厚沢部	あっさぶ 特産品を使った新商品開発・研究事業
神恵内村（後志管内 16 商工会）	後志 地産知食で再発見～知って食べる後志BBQサミットPR事業
下川町	下川産小麦（はるきらり）を使用した新商品開発事業
釧路町	「釧路管内ご当地弁当の開発研究」による地域特産品PR事業
幕別町	幕別町ベンチャーキッズ支援事業

<平成 28 年度・地域振興活動パイロット事業>

幹事商工会名	事業名
北斗市	北海道新幹線開業を契機とした地元農水産加工品開発による地域の魅力発信
猿払村	地元の特産品を使用した新商品開発事業
えんがる	えんがる地場商品開発プロジェクト
安平町	地域ブランド力を活かした新土産品開発プロジェクト
釧路町	地域資源を活用した観光パッケージの作成と情報発信
羽幌町（苫前町・ 初山別村）	留萌管内中部ベンチャーキッズ支援事業

7 青年部全国大会・代表者視察研修事業

第1回の青年部全国大会は、北海道において平成11年2月に「夢と希望と～恐れなき勇氣、限りなき情熱、終わりなき挑戦～」をテーマに開催され、約2,400名の青年部員が参集した。

また、この大会で行われた全国青年部長会議において大会宣言が採択され、今なお商工会青年部宣言として受継がれている。以降、全国6ブロックの持ち回りで大会を開催。青年部主張発表全国大会や全国青年部長会議などを実施している。

現在、若手後継者等育成事業費による代表者視察研修事業として、各管内代表者が全国

大会に併せて先進事例の視察研修を実施し、青年部活動推進のための情報交換や相互研鑽、また地域リーダーとしての自覚と意識の醸成により、若手経営者・後継者としての資質向上が図られている。

大会決議（北海道宣言）

かけがえのない人たちと、かけがえのない地域の為に、
われわれは、自己の利益追求のみならず、国家を基盤とした社会の恒久的な平和と繁栄と実現する。
若き事業家として、何人にも侵されない自立した経営を確立し、地域の商工業を躍動させ、地域の一員としてその責任を自覚すると共に先人の教えに学びつつ、未来に向けた活力ある社会を創出する。
この美しい国、日本に生きる者として、地球の環境問題を捉え、我々だけでなく、次世代の人々の為にも、継続的な運動を推し進める。
そして、全ての国家、民族との交流を積極的に図り永続的共生を同じ時代を担う者としてここに誓う。

“夢と希望と”

NEXT ONE ... *We are full of hope and chase a dream.*

～恐れなき勇氣、限りなき情熱、終わりなき挑戦～

右決議する

平成 11 年 2 月 3 日

第 1 回商工会青年部全国大会



第1回商工会青年部全国大会



第 18 回商工会青年部全国大会

〈全国大会開催状況一覧〉

年度	回	開催日	開催場所		参加者（内北海道）
H 19	10	H 19. 11. 14～15	宮城県	仙台サンプラザ	3,085名（36名）
H 20	11	H 21. 2. 10～11	福岡県	福岡Yahoo!Japan ドーム	4,751名（94名）
H 21	12	H 21. 11. 11～12	富山県	富山市芸術文化ホール	2,486名（32名）
H 22		H 22. 11. 25～26	東京都	渋谷 C. C. Lemon ホール	2,034名（65名）
H 23	13	H 24. 2. 7～8	和歌山県	和歌山ビッグホエール	2,388名（34名）
H 24	14	H 25. 2. 6～7	徳島県	アスティとくしま	2,481名（56名）
H 25	15	H 26. 2. 4～5	埼玉県	さいたまスーパーアリーナ	5,204名（41名）
H 26	16	H 26. 11. 12～13	新潟県	朱鷺メッセ	3,163名（41名）
H 27	17	H 27. 11. 10～11	兵庫県	神戸国際展示場	3,319名（28名）
H 28	18	H 28. 11. 9～10	福島県	ビッグパレットふくしま	5,183名（66名）

〈代表者視察研修実施状況一覧〉

年度	実施日	視察内容（視察先等）	参加者
H 19	H 9. 11. 13～15	青年部全国大会（仙台市）	16名
H 20	H 21. 2. 9～11	青年部全国大会（福岡市）	16名
H 21	H 21. 11. 10～12	青年部全国大会（富山市）	15名
H 22	H 22. 11. 25～26	青年部全国大会（東京都）	15名
H 23	H 24. 2. 6～8	青年部全国大会（和歌山市）	15名
H 24	H 25. 2. 5～7	青年部全国大会（徳島市）、観光施設見学（徳島市内）	15名
H 25	H 26. 2. 3～5	青年部全国大会（久喜市） 「サマカでまちおこし」久喜市商工会鷺宮支所視察	14名
H 26	H 26. 11. 11～13	青年部全国大会（新潟市）、観光施設見学（新潟市内）	13名
H 27	H 27. 11. 9～11	青年部全国大会（神戸市）、観光施設見学（神戸市内）	15名
H 28	H 28. 11. 7～10	商工会青年部・女性部全国組織化50周年記念式典、青年部全国大会（郡山市）、被災地視察、観光施設見学（郡山市内）	13名

8 東北六県・北海道商工会青年部員交流研修会

昭和40年代後半から東北・北海道ブロック青年部協議会（現東北六県・道商工青連連絡協議会）での会議や研修会を通じて各県青連役員による情報交換が行われ、平成6年度からは青年部員を対象とした「東北六県・北海道商工会青年部員交流研修会」となり、第1回目は北海道で開催された。以後、各県持回りで開催されており、東北六県並びに北海道の商工会青年部員を対象に、部員相互の交流を通し、人的ネットワークづくりと部員の資質向上を図ることを目的に実施されている。

平成19年度以降の交流研修会においては、北海道では2回開催されており、平成20年10月17日に開催された研修会では約570名の参加者があり、研修講師として元スピードスケートオリンピック代表の堀井学氏から『夢への挑戦』～オリンピックから地域振興へ～と題して講演会を実施した。平成27年8月26日の北海道開催では、約480名の参加のもと、株式会社デネブ代表取締役の植村和宣氏（全国商工会青年部連合会長）より「これからの企業経営と青年部活動のあり方について」と題した講演が行われた。



平成22年度大会



平成27年度大会

〈商工会青年部主張発表東北・北海道ブロック大会北海道代表一覧〉

年度	開催地	発表者名	商工会	成績	年度	開催地	発表者名	商工会	成績
H 19	秋田県	平野 武志	木古内	敢闘賞	H 20	北海道	大釜 寛保	月 形	敢闘賞
H 21	福島県	相澤 学	音更町	敢闘賞	H 22	宮城県	前 義幸	釧路町	敢闘賞
H 23	山形県	佐藤 樹裕	別海町	敢闘賞	H 24	岩手県	小間 章弘	黒松内町	優良賞
H 25	青森県	吉田 裕	八雲	優良賞	H 26	秋田県	香川 直樹	厚沢部	優良賞
H 27	北海道	西川 正章	当別町	優良賞	H 28	宮城県	田中 一平	七飯町	優良賞

9 青年部指導者中央研修会

昭和43年度に中央講習会として初開催し、昭和60年度に青年部指導者中央研修会の名称に変更、全道の青年部長などの組織幹部を対象として、青年部のリーダーを育成し、青年部組織の充実と事業の拡大を図ることを目的として実施され、企業経営者・後継者としての資質向上を目指すブロック研修会とともに道商工青連の主力事業として受け継がれている。

また、平成10年度からは商工会青年部主張発表大会北海道大会が併せて開催されることとなり、道内4ブロックの代表4名が青年部活動から得た、自らの企業経営や地域振興などの経験や成果を発表している。

地域の活性化を図り、他の模範となる事業活動を展開している青年部の事例などが発表され、研修会に出席した部員の経営、地域活動を相互に研鑽することにより、商工会の次代を担うリーダーとしての意識の高揚と若手経営者・後継者としての資質の向上が図られている。



商工会青年部主張発表



商工会青年部活動報告

〈商工会青年部主張発表大会北海道大会〉

年度	発表者名	商工会	成績	参加者	年度	発表者名	商工会	成績	参加者
H 19	平野 武志	木古内	最優秀賞	229名	H 20	大釜 寛保	月形	最優秀賞	180名
	佐藤 毅英	北広島	優秀賞			西 大志	苫前町	優秀賞	
H 21	相澤 学	音更町	最優秀賞	209名	H 22	前 義幸	釧路町	最優秀賞	180名
	大広 和	真狩村	優秀賞			稗貫 達郎	木古内	優秀賞	
H 23	佐藤 樹裕	別海町	最優秀賞	245名	H 24	小間 章弘	黒松内町	最優秀賞	232名
	木下 満男	江差	優秀賞			片山 兵衛	鷹栖町	優秀賞	
H 25	吉田 裕	八雲	最優秀賞	243名	H 26	香川 直樹	厚沢部	最優秀賞	243名
	仙石 祥	幕別町	優秀賞			永井 貴也	小平町	優秀賞	
H 27	西川 正章	当別町	最優秀賞	235名	H 28	田中 一平	七飯町	最優秀賞	221名
	篠田 猛	標津町	優秀賞			渡辺 祐介	三笠市	優秀賞	

10 経営者育成研修会

本事業は、平成13年度から若手後継者等育成事業として青年部員の資質向上を目的に全道13ブロック（釧路・根室共同開催）で開催してきたブロック別講習会を平成18年度に全道一本化した研修事業である。

全道の商工会青年部員が一堂に会する研修の1つとして、例年2月に開催され、企業経営全般に亘る研修を通じて、青年部員の経営者・後継者としての意識向上と経営力向上が図られている。

研修においては、若手後継者等育成事業で実施した地域振興パイロット事業の実施商工会青年部による地域の活性化報告、商品力強化支援事業や後継者育成塾の参加者による自身の意識改革と企業の経営力向上のための知識習得などの報告がされるとともに、道内、道外より著名な講師を招聘し、近年においては、経営において必要な「企業のあり方」や「経営革新」「事業承継」などをキーワードとした後継者である青年部員にふさわしい内容で実施している。



平成19年度 経営研修会



平成27年度 経営研修会

〈経営研修会の参加状況〉

年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
参加者数	223 名	207 名	258 名	238 名	278 名
年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
参加者数	278 名	231 名	255 名	253 名	348 名

11 交通安全推進事業

交通安全推進事業は、道商工青連事業として「交通事故対象特別推進運動の展開」として昭和52年度事業計画に初めて盛り込まれ、平成6年度から実質的に全道統一事業が始まり、道商工青連が中心となって全道一斉の交通安全キャンペーン「全道商工会交通安全リレー作戦」や意識啓発運動「セーフティチャレンジ180」などを実施してきた。

また、平成24年度には交通事故の根絶のため決意を新たに、青年部・女性部一丸となり地域での交通遺児募金や街頭啓発などの活動を実施していくため、道商工青連会長と道商工女性連会長が北海道警察本部交通部長に交通安全意識啓発運動趣意宣言を行うなど、現在も商工会が行う社会一般の福祉の増進に資する代表的な事業として実施している。



交通安全リレー作戦終了宣言式



交通安全推進運動

〈交通遺児募金実施状況一覧〉

年度	金 額						
H 19	2,112,968 円	H 20	2,011,536 円	H 21	2,209,160 円	H 22	2,239,436 円
H 23	2,083,902 円	H 24	1,867,135 円	H 25	1,844,136 円	H 26	1,847,364 円
H 27	1,906,805 円	H 28	1,921,860 円				

12 道商工青連会長賞

道商工青連会長賞は、昭和44年度から未設置青年部の結成促進、部員増強及び既設青年部の組織の質的な向上を図る目的で「モデル青年部」指定として始められた。平成元年度からは、青年部組織の拡大を目的に、青年部組織の拡大を目的として先進的で活動内容が顕著な事業に取り組む青年部を「事業活動部門」として顕彰し、全道青年部活動の範として表彰を行っている。

平成16年度からは交通安全意識啓発運動及び交通遺児募金における顕著な活動に対する「交通安全部門」を、平成17年度からは、地域において部員加入が図られている青年部に対する「部員増強部門」を表彰に加え、毎年度通常総会にて表彰している。



通常総会での表彰



事業活動部門：厚岸町

〈道商工青連会長賞受賞一覧〉

年 度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
商工会青年部活動部門	上 富 良 野 町 利 尻 富 士 町 豊 頃 町	東 神 楽 町 安 平 町 浦 幌 町	泊 村 沼 田 町 訓 子 府 町	佐 呂 間 町 浜 中 町 新 得 町	あ さ ひ か わ 大 空 町 東 藻 琴 鹿 追 町
交通安全部門	上 川 町	上 川 町	増 毛 町	増 毛 町	増 毛 町
部員増強部門	—	北 広 島	赤 井 川 村	あ さ ひ か わ	あ さ ひ か わ
年 度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
商工会青年部活動部門	江 比 天 差 布 塩	厚 沢 部 鷹 栖 町 根 室 管 内 商 工 青 連	美 深 町 え り も 町 鉤 路 町	占 冠 村 枝 幸 町 幕 別 町	美 深 町 厚 岸 町
交通安全部門	上 川 町	上 川 町	上 川 町	仁 木 町	仁 木 町
部員増強部門	小 清 水 町	喜 茂 別 町	蘭 越 町	七 飯 町	新 得 町